

脂質生化学研究

脂質生化学研究 Circular

1992

日本脂質生化学研究会
(JCBL)

平成四年度会費払い込みのお願い

- 平成四年度会費 3,000 円を、3 月末までにはさみ込みの振替用紙でお払い込みください。
- 振替用紙は 1 人 1 枚お使いください。不足の場合は郵便局の窓口に着払いの用紙をご利用ください。振替の送料は事務局負担ですので赤い振替用紙です。
会費送付先 振替番号 東京 4 - 91400 日本脂質生化学研究会
- 本年度より入会希望の方は、事務局までハガキでご一報ください。そして、入会金 2,000 円 + 平成四年度会費 3,000 円 = 合計 5,000 円を前記同様に郵便振替でお送りください。なお、振替用紙通信欄に新入会とお書きください。
- 本年より退会なさる方は、ハガキでご一報ください。
(事務整理の都合上、2 年間滞納の場合は自動的に退会扱いといたします。)
- 本会報の受け取り人が、海外へ出られたり、或は他の場所へ転出された時は、お手数ですが返送または、転送をお願いします。
- 所属の変更、あるいは外国長期出張の際は必ずご連絡ください。

事務局 (〒173) 東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部第一生化学教室内
日本脂質生化学研究会事務局 TEL (03) 3964-1211
(内線) 2225, 2226

.....貴方の会費で運営されています

今日、お払い込みください.....

第34回日本脂質生化学研究会・研究集会のお知らせ

- 会 場：マイドームおおさか
〒541 大阪市中央区本町橋2番5号
TEL 06-947-4323
- 期 日：1992年6月17日(水)～18日(木)
- 実行委員長：山 本 章
〒565 大阪府吹田市藤白台5-7-1
国立循環器病センター
TEL 06-833-5012
- 集会参加費：4,000円
- 懇 親 会：1992年6月17日(水)夕刻 国際ホテル(マイドームおおさか隣接)
TEL 06-941-2661 会費 5,000円(予定)

第34回研究集会発表演題の募集

- ① 演題の申し込み
発表12分討論5分を予定して居りますが、演題数によっては変更になる場合もあります。
申し込みには挿み込みの原稿用紙をお使いください。これは、このまま印刷になるのではありませんから、タイプでもワープロでも手書きでも結構ですが、黒で読み易く書いてください。
申し込み締切 3月25日(水) 必着 昨年より早くなっていますご注意ください。
- ② 審査ならびにプログラム編成
在京幹事、実行委員を中心に審査ならびにプログラム編成をおこない、改めて、講演集用原稿用紙をお送りいたします。(4月1日予定)。
- ③ 講演集用原稿締切 4月23日(木) 必着 昨年より早くなっていますご注意ください。

[申し込み、および講演集原稿送付先]
〒173 東京都板橋区加賀2-11-1
帝京大学医学部第一生化学教室内
日本脂質生化学研究会事務局 宛

第34回日本脂質生化学研究会への参加お願い

第34回の脂質生化学研究会をお世話させていただきに当り、今回は同じく大阪で行われます動脈硬化学会(大阪大学垂井名誉教授会頭)に接続させることを企画しました。そのため曜日が水曜日(17日)・木曜日(18日)と週の真中になってしまいましたことを御容赦下さい。

今回は第2日目の午後に「脂質代謝関連蛋白質の遺伝子の進化」について3題の講演のあと、2つのワークショップを用意しております。また第1日目の夕刻懇親会の前に2つの講演をしていたく様になっていますので、奮って御参加下さい。

- (1) 第1日目(17日)夕刻の講演(いずれも仮題)
 - a) 飛鳥ロマンの旅(日本と朝鮮の歴史の一コマ)
金 達 寿 先生
 - b) 食品機能と抗酸化剤
大 沢 俊 彦 先生(名古屋大学農学部)
- (2) 第2日目(18日)午後講演「遺伝子の進化」(敬称略)
 - a) アポリポ蛋白 Lawrence Chan (Baylor 医科大学)
 - b) プロスタグランディン系代謝酵素
藤 博 幸(蛋白質工芸研究所)
 - c) 脂肪酸活性化酵素
山 本 徳 男(東北大学農学部)
- (3) 第2日目(18日)午後ワークショップ(敬称略)
 - a) 血栓・凝固因子の代謝
(編集) 清水 孝 雄(東大 生化) 成 宮 周(京大 薬理)
田 辺 忠(国立衛セン)
 - b) 脂質の生合成と分解の酵素的背景
(編集) 岡 田 伸太郎(阪大 小児科)
谷 口 直 之(阪大 生化)

第2日目の翌日(19日(金))には動脈硬化学会が開かれますが、その初日には午前の一般演題のあと午後にハイライト・レクチャー：血栓調節機構が用意されています。こちらの方にもまた奮って御参加下さい。

場所はマイドーム大阪(大阪市中央区本町橋2-5 (Phone 06 947 4322))の8F研修会議室を一般会場として使用しますが、午後の講演と血栓のワークショップには1～3Fの動脈硬化学会用の会場のどれかを使用する予定です。懇親会は隣接の国際ホテル(06-941-2661)で行います。幹事会の行われる大阪商工会議所ともすべて内部でつながっています。

なお大阪は東京と同じく案外ホテル事情がわるく、特にひきつづき動脈硬化学会に出席される方は18日(木)夜の国際ホテルの予約もむづかしいと思いますので、阪急交通社に世話を頼んであります。御利用お願いします。

〒565 大阪府吹田市藤白台5-7-1
国立循環器病センター研究所
副所長 山 本 章
TEL 06-833-5012

平成四年度 日本脂質生化学研究会総会のお知らせ

上記の総会を平成四年6月17日(水)、懇親会に先だって、懇親会場に於て開催いたします。ご出席賜りたく存じます。

会長 山 川 民 夫

- 議 題
1. 平成三年度事業報告
 1. 平成三年度決算報告ならびに監査報告
 1. 平成四年度事業計画ならびに予算案

以 上

平成四年度 日本脂質生化学研究会幹事会のお知らせ

上記幹事会を平成四年6月17日(水)正午(プログラム編成上、若干の変異があるかもしれない)より大阪商工会議所内で開催いたします。幹事の皆様のご出席をお願いいたします。

- 議 題
1. 平成四年度日本脂質生化学研究会総会への提案事項の検討
 1. そ の 他

会長 山 川 民 夫

- 。 幹事の皆様には別途、ご案内を申し上げます。
- 。 尚、昼食代1,000円を申し受けます。

原 一郎先生を偲ぶ

——お通夜の席上での挨拶より——

会長 山川 民夫

私は、この祭壇にささやかなお花を供えている日本脂質生化学研究会の会長をしている者です。この会は1960年に創立された日本の脂質生化学者の集まりで、年一回の研究会を開催し、たとえ未完成でも研究業績を発表しあって、一同で討論していただくインフォーマルな会として始められたものです。初代会長は北大教授の故安田守雄先生でしたが、実質的には原先生がおつくりになり、運営の一切をなさって下さいました。脂質の化学と生物学の中間に行くという原先生のフィロソフィがこめられて、現在まで30年以上に亘って地味な歩みを続けております。原先生ご自身は、戦時中に東大理学部化学教室を卒業後、海軍の技術将校としてスクアレンを水素添加して寒冷地でも凍らない潤滑油の研究をしておられ、戦後は東大医学部血清学教室を舞台に、緒方富雄教授を助けて梅毒の血清診断反応としてカルジオライピンの研究から次第にリン脂質の化学合成に移られ、更にリポ蛋白質の分野に入り、循環器病専門の臨床医学者とも積極的に交際を深められました。先生は更に日本油化学協会の会長も努められましたが、その学会の生化学部会でも同様に化学と生物学の橋渡しの役割を心掛けられました。先生の本職は申すまでもなく東京医科歯科大学の教養部にあって、学部長として大学紛争の調停にも当られ、ご停年退官後は株式会社東ソーにおいて、また工業化学のコンサルタントとしてご自身の持味を十分に発揮されました。先生には本会の会長をつとめていただきましたが、退官に際して会長を私にお譲りになり名誉会長となりました。日本脂質生化学研究会が、他の類似の研究会や学会に例を見ない程、学問一途の和やかな会であることは一に先生のご人徳によるもので、本会の正に恩人であります。

私事に亘りますが、昭和13年仙台の旧制二高に入学しました時

に、3年生の原先生がフランス語研究会を作られ、私ども下級生を勧誘して学内に10数人のグループの同好会として発足しました。原先生ご自身は暁星中学のご出身で、仏語には既に堪能であり、私どもと共に勉強することはなさらず、コンパに出て賑やかに談笑するだけでした。当時は旧制高校での外国語教育は独語と英語のみで一高はじめ2、3の高校でしか仏語の授業を行う所はなかったのですが、私どもが今でも字引をひけば仏語の論文を読むことが出来たり、フランスに行ったら店の看板が読めるのは、全く先生のおかげです。高校の先輩は偉いもので、私には最後まで「オイ、山川」そのうちに「山川君」と呼ばれ可愛がって下さり、私も本会の設立以来先生のお手伝いをして参りましたが、その後、共立出版の「脂質化学」その他日本の脂質生化学に関する実験書などの著作の編集などにも、先生の下で働くことを喜びとしておりました。

私が伝染病研究所から本郷の医学部に移ってからは、先生の研究室とは近くなり、毎週のように教授室を訪ねて来られては、あの明るい何ものにもとらわれない大きな声で話をされて、ひょう然と帰られるのが常で、最近、東ソーに移られてからも時折電話をかけてこられ「いつ電話しても居ないじゃないか」と名乗らなくても直ぐ判る声で近況を話される事も以前と変わりませんでした。

先生はお得意のフランス語が縁でパリ大学のポロノフスキー教授の許に留学されましたが、それもあってヨーロッパの文化や歴史にも詳しく、話題も豊富な方でした。先生はいつも縁の下の方の立場で学会を支えて下さいましたが、いわゆる政治的な駆け引きの様なことは大嫌いで、ご自身の昇進や無理な人事を行うような野心の全くない方で、ご健康で、登山、スキー、テニスをやりになる他、いつも学内を歩きまわっておられました。今回の病気になられてからは、本会の会合にも出席されず、電話では一寸具合が悪いだけだ、詳しい事はそのうちに話すとおっしゃっていましたが、あるいはご自分の病気の内容はよく知っておられ、知らないふりをしていたのかとも思います。

原 一郎 先生を悼む

東京医科歯科大学・教養部

村松敏夫

すでに皆様ご承知のことと存じますが、昨年10月8日日本研究会名誉会員、また第2代会長であられました原 一郎先生が逝去されました。

先生は1983年(昭和58年)3月に東京医科歯科大学を退職され、直ちに(株)東ソーに顧問として迎えられ、7年あまり大変お元気であられました。1990年の初め体調を崩されて以来、しばし病床に臥され、ついに73才で帰らぬ人となりました。生前の人一倍お元気な姿と気持ちの若々しさからは信じられないことであります。

先生は本研究会を創設された一人であり、創設以来30年あまり本研究会のために文字通り大奮闘され研究会を今あるように発展させて下さいました。そしてその長い間、時にはお一人で事務局の仕事を引き受けられ会報の編集から発行まで、会費の集金事務などで郵便局にまで足を運ばれるなど会の発展に、そして会員のためにと尽くされましたし、また、8年間という長い間会長を務められました間も植田事務局長とともに会の運営はもとより事務局の一人一人に労をねぎらうほどの気の使いようでありました。ここに、これまで本会に尽くされました御功績を振り返り改めて感謝申し上げるとともに御冥福をお祈りしたいと存じます。

先生は旧海軍に勤務され、本研究会の会員でありました故松尾登先生とともに潤滑油の研究をされて以来、一貫して油脂および脂質の領域で研究をされておりましたが、この領域内での活動は純学術的研究から応用研究まで、内容も界面化学のような物理化学からリン脂質の合成、またリポ蛋白分離・分析のような有機化学、そ

して免疫学のような生化学から生物学など多方面にわたるご活躍がありました。一方、研究に没頭されているのみではなく、本研究会以外のいくつかの学会にも所属されて国際会議の日本代表を務められるとか、日・米間のジョイントミーティングを組織され自ら会長を務められるなど発展に寄与されておられました。そして本会の場合と同様に事務局の職員の給料のことまで心配されるほどの気の使いようでありまして、まさに超人的でありました。

また先生は江戸っ子のような気風のよい、明るい性格のせいでしょうか内外を問わず非常に多くの知人、友人をお持ちで、何時も人が先生の回りにおり賑やかでありましたし、また知人、友人をつくることにかけては天才であられました。そしてこのことが今日ある本研究会が創立以来参加者を増し、内容も年毎に隆り上り、ついにその存在が国際的に認められるまでになったことの原動力となっていると信じております。

一方、私どもの大学におきましても、学園紛争の最中に教養部長を務められ多忙の日々を送られたりしましたが、その間でも研究を進められておりましたこと、そして常々“人のために役立つ研究をせねばならぬ”、“物をつくることも大切であるが、それを使うのは人であることを忘れてはならぬ”…等々、応用研究の立場を貫かれた先生でありました。このことは大学を退職される直前の数年間にわたる‘リポタンパクの分析と医学への応用’に関するお仕事でもお解り頂けると思います。個人的にも脂質研究の手ほどきをして頂きました者として、お教え下さったこれら多くのことを守り貫くことをお誓いし、心から御冥福をお祈りしたく思います。

1958年、『脂質化学』第1巻(共立出版社)が出版されています。原一郎先生は、故舟橋三郎先生などと共にその編集をなさいました。当時は私が舟橋先生のもとで助手になって間もない頃です。その編集のために舟橋教授室を度々訪ねられた原先生にお目にかかったのが、私と原先生との出会いの始めだったように思います。当時まだ駆け出しだった私が、それに「ビタミンA」の項目を執筆させて頂いたのは、舟橋・原両先生のご好意によるものだった、と思われまゝ。

脂質生化学研究会が創立されたのはそれから2、3年後の事となりますが、その事務を舟橋先生が引き受けられた関係もあって、原先生はその後も度々私達の研究室を訪ねられ、何時の間にか私も何となく年上の友達のような感じで先生とお付き合い頂くようになりました。

私自身の研究の対象は脂質の本流ではなくて、誘導脂質というべきカロテノイドでしたから、先生と学問的なお付き合いをした記憶はありませんでした。けれども、1963年に自宅が先生のお宅(東京、世田谷の砧)の近くなった関係で、通勤・帰宅の途上の電車でお目にかかり、いろいろと楽しい会話に耽った思い出が強く残っています。あの、歯切れのよい口調、建前に捕らわれない本音の物言いなど、会話の中身は忘れてしまっても、今でも鮮明に思い起こされます。私の研究の内容が「脂質研究」というのにはいささかはばかられるものであったにもかかわらず、本研究会に入れて頂き、幹事にまでして頂いたのも半分は先生の人間的魅力にひかれたからだ、とも言えるのです。

先生は、東京医科歯科大学を定年退職された後、他の大学で教職に就かれる事なく、民間会社で働かれました。この事も先生の大変ユニークな点だったと思います。大学の研究者の中には、研究者・教育者としての職業を特別に値打ちのあるものと考えて、高年になっても、そういう職業にこだわる人々が結構多いのですが、先生はそういうこだわり(実際は、そういうこだわりは大変俗物的なものだと私は思います)には無縁で自由に振る舞われました。そして、私の研究室にも企業のセールスマンのするような話題を持ってこられて、愉快に雑談をして行かれました。そういう親しみ深い先生のお姿を見る事も、そのお声を聞く事ももう出来ません。先生の訃報を聞いて、そういう悲しみと淋しさが私の胸に広がりました。もちろん、その悲しみにまざるお悲しみとお淋しさを、長年連れ添われた奥様が耐え忍んでおられる事と思います。謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げたいと思います。



E.N. Frankel教授夫妻と共に
Am. Oil Chem. Soc. 年会(1987 New Orleans)
島崎弘幸氏提供

「おい、お前は俺の弟子だよナ…」

植田伸夫

昭和30年頃、原一郎助教授は、千葉市の稲毛にある千葉大学文理学部のキャンパスで、「有機化学」を講じて居られた。

「……。まあ、リン脂質ってのは、こんなもんだ。」この講義は理系、薬系のものであったが、医系の小生は、多分ヒマだったのでしょ……。それとも、ものすごく向学心に燃えていたか？どちらかですが、この単位をとってしまいました。

細竹の指示棒をヤッコ尻の横棒よろしく、両肩にのせて、講壇の上を歩きまわる、カッコイイ先生でした。薬系の女の子が、大勢いました。

それから何年たったでしょう。小生は大学院学生として山川教室に居ましたが、或る日そこでバッタリ出合いました。「おい、お前は俺の弟子だよナ……」

日本脂質生化学研究会の事務局を1977年に原先生から引きついで今日に至りました。

その原先生のご訃報に接したのは、中国の奥地、新疆ウイグル自治区のホテルの一

室でした。そして、昨年の11月9日の合同葬にも、お別れに伺うことができませんでした。大変心残りです。

その後、岡崎三代さんから、合同葬の機に配られた栞を頂きました。そこに、松橋直先生、岡崎さんの文章があり、最晩年の原先生のお姿を彷彿とさせるものがありましたので、会員の皆様にお知らせしたく、お許しを得て、一部ご紹介させていただきます。

岡崎三代「……省略……1年余り前から体調をくずされて病氣療養中のところ東京医科歯科大学医学部付属病院にて10月8日に永眠されました。本年6月4日、学長室での勲三等授与式は、手術の翌日のため車椅子でのご出席でしたがとてもお元気な様子で「オイ、みんなもっと頑張ってくれよ」と語りかけられ、11月30日の第1回糖尿病診断マーカー研究会の企画をすすめるなど最後まで目標に向かってまっしぐらの生き方を私達に見せてくださいました。」(東京医科歯科大学教養部化学教室)

松橋直「……省略……本年9月26日午前、御機嫌伺いがてら相談の積もりで御自宅に電話する。何回かけてもお留守。図書室で調べものをして実験室に帰ると、『ハライチロー』ですがと女性の電話があったが、何の伝言もなかったとの連絡。後からの奥様の御話では、意識不明になられる寸前に『松橋』と呼ばれたとのこと。何かの絆で結ばれていたのである。

人生の節目・節目には、かたい握手で激励して下された先生と、奇跡的に意識回復された『ひととき』、交わしたかたい握手が永いお別れとなってしまった。

枕元に書き残された文章に、『成せば成る成さねば成らぬ』と読み取れる部分がある。行動し実践する科学者であった故原一郎先生に相応しい、文字通りの絶筆であった。」

(東京大学医学部血清学教室同窓生、葬儀委員長)

会 の 活 動 状 況

① 第33回日本脂質生化学研究会・研究集会の開催

実行委員長の鬼頭教授が日本文化の精髓ここにありと祇園祭りにぶつけられた会期、7月15日(月)、16日(火)の二日間、京都の都ホテル瑞穂の間で開催された。

第一日目の午前には、日本の脂質研究のフロンティア — 第一線の現状を探るという、実行委員長企画のシンポジウムが開催され、第一日目午後、第二日目午前、午後は一般演題がおこなわれた。

やはり、圧倒的に糖脂質関連の演題が多く、次いでリン脂質関連になるが、それでも関連酵素、関連抗体タンパク、そしてそのDNAなどへの拡がりが見られ始めている。しかし、やはり保守本流的傾向が強い。

会場はさすがに京都の誇る一流ホテルだけあって、冷房も程よく、夏の暑さを忘れた二日間であった。

会期二日間は雨もよいの天気だったが、翌日の本祭りはカンカン照り、鬼頭教授の執念か、本当に素晴らしい山鉦巡行を拝見させて頂きました。

鬼頭教授をはじめ、研究室の皆様に厚くお礼申し上げます。

② 第33回日本脂質生化学研究会総会

平成3年7月15日(月)午後5時10分より、都ホテル(京都)新館4F瑞穂の間に於いて開催された。

総会次第

(1) 開会の辞 庶務幹事 植田 伸夫

(2) 挨拶 会長 山川 民夫

(3) 議 事

1) 平成2年度事業報告及び決算報告

植田庶務幹事

2) 会計監査報告

野島会計監査

拍手で承認

3) 平成3年度事業計画案及び予算案

植田庶務幹事

(別紙参照) 拍手で承認

4) 役員の改選

平成3年12月31日で任期の切れる幹事29名全員の再選が提案され、これを承認した。また、新名誉会員として、日下喬史、野島庄七氏が選出された。

新幹事には、次の方々が承認された。阿部敏明、有田 斎、板倉弘重、市原宏介、入谷信子、岡田伸太郎、菊川清見、斉藤政樹、清水孝雄、瀬高守男、中川靖一(以上12名)改選された幹事、及び新幹事の任期は平成4年1月1日から平成7年12月31日迄である。

5) 平成4年度の研究集会準備状況の報告

山本 章実行委員長

会期は平成4年6月17-18日(水、木)とし、日本動脈硬化学会にも会員が参加できるよう配慮すると共に、両学会に共通のトピックスで脂質代謝に関する特別講演を考えている。

6) 平成5年度研究集会 実行委員長の選出

山川会長より、赤松 穰幹事に実行委員長をお願いしたいとの提案があり、満場一致でこれを承認した。

③ 平成3年度第1回幹事会

平成3年7月15日(月)正午より、都ホテルにおいて幹事会を開催した。

出席者は52名(氏名略)総会に提案すべき事項を審議した。

議事内容は、総会と同じ。

④ 平成3年度第2回幹事会

平成3年12月5日(木)午後6時より学士会館分館(文京区本郷)で開催された。

出席者: 山川民夫(会長)、植田伸夫(庶務幹事)、野島庄七(監査)、赤松 穰

赤沼安夫、荒木英爾、猪飼 篤、石塚稲夫、伊藤俊洋、児島英也

島崎弘幸、鈴木明身、脊山洋右、田辺 忠、西村顕治、原島圭二

飯田静夫、山本 章、山村 卓、和久敬蔵 以上20名

欠席届: 47名

(返信葉書による幹事会への提言はありませんでした。)

1) 平成3年度事業報告案および決算案平成4年度事業計画案および予算案の審議

(1) 正会員数について

平成3年12月1日現在で正会員数は737名である。

なお、退会者200名とあるのは、過去2年以上年会費の納入が無いまま、会員原簿では会員として記載してきた者を、今回、会員原簿の整理に伴って、削除した為に生じたものとの説明が事務局からあり、これを承認した。

また、事務局では会員名簿を作成する為の準備をしてきたが、平成4年春には、日本生化学会で会員名簿の発行を予定しているとの申し出があり、本研究会の会員もその多くは生化学会に所属していることでもあり、本会での会員名簿の発行は尚検討することとした。

(2) 賛助会員数について

本年度より、賛助会員費（現行2万円/年）の値上げを目的として、1口1万円で2口以上の賛助会員費の納入をお願いしたところ、多数の賛助会員には賛同して頂くことが出来たとの報告が植田庶務幹事よりあった。しかし、数社からは退会の申し出があり、これらの企業に対して、山川会長、植田庶務幹事を中心に再度依頼することを申し合わせた。

(3) 決算案、予算案について

提案どうり了承された。

(4) 第34回研究集会の準備状況報告

実行委員長の山本章幹事より、第34回研究集会の準備状況について説明がありこれを承認した。

(5) 第35回研究集会について

実行委員長の赤松稔幹事より、準備状況の説明があった。

(6) 日本学会会議員の推薦会報告

平成3年6月12日推薦人会議が開催され、本研究会より植田庶務幹事が会議に出席した。その結果、生化学研究連絡委員会からは山科郁男氏（京都産大）が推薦された。尚、山科郁男氏は諸手続きが終了し、第15期学術会議委員に就任された。

(7) 文部省科学研究費データベースに関する報告

今年度で科研費の3年目が終了し、データ提供者にフロッピーのデータが送られる予定である。尚、4年目の申請もおこなった。

(8) 研究会会報（Circular）の発行

植田庶務幹事より、次年度のサーキュラー発行の準備状況について説明と原稿の依

頼があり、これを了承した。

(9) その他

学協会著作権協議会への複写権委託とCCC登録参加について、同協議会より申し出があった。これに対し、いま暫く事態の推移を見極めて対応することとした。

以上取りまとめて平成3年度の事業報告および決算並に平成4年度事業計画および予算案として了承され平成4年度の総会の承認を受けるものとなった。

⑤ 平成3年度事業報告

○ 会 員	正 会 員	737 人 (平成2年度 894 名)
	3 年度新入会	43 名
	退 会	200 名

名誉会員 14 - 1 人

賛助会員 13 社

○ 役 員	会 長	山 川 民 夫	任期平成4年12月31日迄
	庶務幹事	植 田 伸 夫	〃
	会計監査	野 島 庄 七	〃
	幹 事	4 年度事業計画参照	

○ 事 業

1. 第33回研究集会の開催

平成3年7月15日(月)

16日(火)

京都ホテル

実行委員長 鬼頭誠教授

演 題 数 特別演題 5

一般演題 106

参 加 者 420 名

2. 脂質生化学研究33巻の発行

本文 457 ページ

3. 脂質生化学研究サーキュラー1991の発行

本文 24 ページ

4. 会議

1. 日本脂質生化学研究会総会

平成3年7月15日(月)

京都都ホテル 瑞穂の間

2. 平成3年度第1回幹事会

平成3年7月15日(月) 京都都ホテル

3. 平成3年度第2回幹事会

平成3年12月5日(火) 学士会館分館

⑥ 平成3年度決算報告

(決算表参照)

⑦ 平成4年度事業計画

○ 会 員 正 会 員 微増の見込み

名誉会員 今井 陽, 数野太郎, 金田尚志, 日下喬史, 坂上利夫
高橋善弥太, 永井諄爾, 野島庄七, 野田万次郎, 藤野安彦
堀 太郎, 松本 亮, 山川民夫, 山崎三省, 山添三郎

賛助会員 20社 別記

○ 役 員 会 長 山川民夫 任期 平成4年12月31日迄

庶務幹事 植田伸夫 同 上

会計監査 野島庄七 同 上

幹 事 (任期 平成4年12月31日迄)

赤松 穰, 上田隆史, 小倉道雄, 香月裕彦, 加納英雄

北 徹, 日下喬史, 楠瀬正道, 児島英也, 斎藤國彦

菅野道廣, 武内 望, 武富 保, 千田信和, 内藤周幸

永井克孝, 橋本 隆, 秦 葭哉, 林 陽, 林 浩平

原島圭二, 飯田静夫, 平山 修, 穂下剛彦, 牧田 章

三成 脩, 村松敏夫, 山下 哲, 山田晃弘, 山本 章

(任期 平成5年12月31日迄)

猪飼 篤, 池沢宏郎, 石塚稲夫, 石橋輝雄, 伊藤精亮

古賀洋介, 鬼頭 誠, 田辺 忠, 矢野郁也, 山本尚三

(任期 平成6年12月31日迄)

宇田 裕, 木村修一, 島崎弘幸, 鈴木康夫, 高野達哉

塚谷博明, 二木鋭雄, 宮澤陽夫

(任期 平成7年12月31日迄)

赤沼安夫, 秋野豊明, 阿部敏明, 荒木英爾, 有田 斎

安藤 進, 猪川嗣郎, 板倉弘重, 板坂 修, 市原宏介

伊藤俊洋, 井上圭三, 入谷信子, 遠藤 章, 大島美恵子

大橋昌子, 岡田伸太郎, 岡本光弘, 奥田拓道, 奥山治美

小野輝夫, 川口昭彦, 菊川清見, 斉藤政樹, 渋谷 勲

清水孝雄, 鈴木明身, 瀬高守男, 脊山洋右, 谷口直之

玉井洋一, 中川靖一, 中野益男, 西村顕治, 野沢義則

野間昭夫, 松原淑子, 水柿道直, 武藤泰敏, 和久敬蔵

(以上 91名)

○ 事 業 1. 第34回研究集会の開催

平成4年6月17日(水)

18日(木)

マイドーム大阪 大阪市中央区本町橋2-5

2. 脂質生化学研究34巻発行

演題募集(サーキュラー発行) 2月10日

演題申込締切 3月25日

採用通知(原稿用紙発送) 4月1日

原稿締切 4月23日

編成会議 4月25日

入 稿 4月27日

講演集発送 6月1日

3. 脂質生化学研究会サーキュラー1992の発行 2月10日

4. 会 議

○ 日本脂質生化学研究会総会

平成4年6月17日

国際ホテル

○ 第1回幹事会

平成4年6月17日

大阪商工会議所

○ 第2回幹事会

平成4年12月

未定

○ 平成4年度予算 (予算表参照)

賛助会員

エーザイ株式会社 10口

三共株式会社 以下4口

藤沢薬品工業株式会社

山之内製薬株式会社

東ソー株式会社

雪印乳業株式会社 以下3口

株式会社東京化学同人

株式会社資生堂

第一製薬株式会社

大日本製薬株式会社

株式会社大塚製薬 以下2口

花王株式会社

共立出版株式会社

日本ルカル株式会社

株式会社ヤクルト本社 以下未定

株式会社ジャパンバイオ研究所

東京田辺製薬株式会社

富山化学工業株式会社

塩野義製薬株式会社

住友製薬株式会社

次算表および予算表

収入の部	平成三年度		平成四年度
	予算	決算	予算
正会員会費	2,200,000	1,989,000	2,150,000
入会費	100,000	86,000	86,000
賛助会員会費	440,000	350,000	450,000
講演集売上げ	160,000	120,000	120,000
広告収入	850,000	800,000	850,000
利子	60,000	98,948	70,000
寄付金	0	0	0
雑収入	0	0	0
小計	3,810,000	3,443,948	3,618,000
前年度よりの繰越金	2,141,786	2,141,786	1,760,963
計	5,951,786	5,585,734	5,378,963

支出の部	平成三年度		平成四年度
	予算	決算	予算
研究集会補助	500,000	500,000	500,000
会報製作費	350,000	248,958	300,000
講演集製作費	1,900,000	1,754,026	1,800,000
旅費	70,000	70,940	40,000
郵送料・通信費	400,000	359,843	350,000
会費収納経費	35,000	32,000	35,000
事務用品費	120,000	55,818	70,000
会合費	120,000	116,836	130,000
謝金	50,000	35,000	50,000
総会経費	5,000	5,000	5,000
事務経費	600,000*	600,000*	300,000
雑費	30,000	46,350	30,000
小計	4,180,000	3,824,771	3,610,000
次年度への繰越金	1,771,786	1,760,963	1,768,963
計	5,951,786	5,585,734	5,378,963

*事務経費は1年間300,000円であるが、定期預金の都合上平成2年度では支出せず平成三年度に二年分を支出した。

1989年の9月から1991年の8月までの2年間、私はシアトルにあるUniversity of WashingtonのDr. John A. Glomsetの研究室で過ごす機会に恵まれました。アメリカ本土の北西のに位置するシアトルは人口60万、周辺地域を含めて200万、やや小じんまりした美しい都市です。University of Washingtonは州立の総合大学で、市内北部に広大なキャンパスを有しています。医学、生物科学系の研究、教育は盛んです。キャンパスの南半分には大学病院、医学部をも含めた巨大な総合研究棟があり、またダウンタウンに付属研究施設としてFred Hutchinson癌研究所、Biomembrane研究所などがあります。

Glomset研究室の構成は、ポスドク5~6名、テクニシャン5~6名、大学院生1~2名、アルバイト1名、秘書1名の計15~16名でした。日本と比べると人の移動は多く、私のいた2年間にポスドク4名、テクニシャン1名、秘書1名が入れ替わりました。仕事は各自別々のテーマで進めていますが、脂質代謝のプロジェクトと、イソプレニ化タンパク質のプロジェクトに大別されます。

脂質代謝の研究としては、リン脂質の細胞内リモデリングと生体膜の構築メカニズムについて調べる目的で、1) PIの分子種特異的生合成とそれに関わる酵素として見つかったC₆A非依存ステアロイル転移反応の性状解析とそのトランスアシラーゼの精製(私はこのテーマに取り組んでいました)、2) アラキドニル特異的DGキナーゼの精製と性状解析、3) 生化学的及び物理化学的手法による膜マイクロドメインの研究が行われています。

タンパク質のイソプレニ化は数年前に同定された新しいタイプの脂質によるタンパク質修飾反応で、炭素15個のファルネシル基または、炭素20個のジェラニルジェラニル基がタンパク質のC末システイン残基にチオエーテル結合するものです。Gタンパクのγサブユニット、低分子量GTP結合タンパク質などがイソプレニ化されていることが明らかにされています。イソプレニの修飾反応の生化学的解析はかなり進んでおり、研究の方向はイソプレニ化タンパク質の細胞生物学的意義の解明に向けられています。

研究環境として恵まれていると思ったこともいろいろあります。テクニシャンの人の分業や機械の自動化、ディスクの積極的活用で省力化を進めていること。図書館が夜11時まで、土曜日曜も夕方まで開いていたこと。研究室員から見ると学部学生の数に対して

教授陣、ポスドクが多いと感じられたこと。しばしば著名な研究者が来訪しセミナーが開かれることなどでした。

アメリカの生活は比較的朝が早く、人によっては朝7時過ぎから仕事を始めている人もいました。例えば、夜6時以降は家庭の時間として確保したいから朝早く来るという場合もあります。もっとも若いポスドク、特に独身者は、休日でも遅くまで実験している人が多いのは日本と変わらないと思います。慣れてしまえば何でもないのであるのですが、一方で帰りに焼き鳥で一杯等というのがほとんど無いのは残念でもありましたが、ただ大学周辺のパブには残念ながら赤ちょうちんに勝る肴はありませんでした。

この研究室では、毎月その月に誕生日を迎えたメンバーを祝うためにケーキを買ってきたり、街のカフェで昼食会を開きました。学部内では折りにふれ一品持ち寄りのパーティも開かれました。シアトルは幸い海の幸に恵まれ、また世界各地の文化が入り込んでいて街中に様々なエスニック料理店があります。特に我々の間で人気があったのはタイ料理、メキシカン、ケイジュン料理等でした。食べることはやはり誰にとっても大きな関心事で、食べ物のことで話が弾み、勿論科学の話もし、楽しいひと時が過ぎます。

朝、研究室に行ってもまずコーヒーを飲むのが私のいつものコースです。研究室のあるフロアの一角に、流し、冷蔵庫、電子レンジ、コーヒーメーカー、それに椅子とテーブルの備わった休憩室があり、随時皆一息いれているのです。ここでの5分か10分は、周りの人たちと顔見知りになり、また会話の練習に非常に有意義でした。私が使っていたコーヒーマグはこうプリントされていました。"I'm a workaholic! Mention work, and I'll get drunk." こういったユーモアグッズがいろいろ売られているのです。日本人が仕事中毒とされているのは有名で、時々このマグカップに気づいた人が、"Is it true you are a workaholic?"などと話しかけてきます。こんな時は、"I hope not."と答え、さらにこう付け加えます。"I bought this mug at a Hallmark shop, then I was so surprised to find that it was made in Japan." ちょっとした会話の輪を広げるのに非常に役だったこのマグカップは本当に日本製と書かれていました。

"I will miss you. We will keep in touch." ボスが開いてくれたフェアウェルパーティで別れの言葉を言い合って帰国の途についたのはほんの数カ月前でした。最初のうちは実験も軌道に乗らず困りましたが、過ぎてみれば大変楽しく過ごせた2年間でした。研究成果を上げることは勿論ですが、それにも増して周りの人たちと打ち解け、話し合い、楽しく生活してこれたのが素晴らしいことだと思います。

編集後記

日本脂質生化学研究会の初代会長安田守雄先生の追悼文を載せた「会報」を皆様のお手許にお届けしたのは10年前(1982年2月)でした。

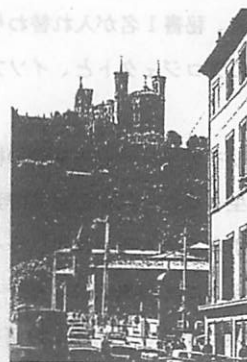
今回、第二代会長、原一郎先生の追悼文を収載した「サーキュラー」をお届けしなければならなかったのは悲しい極みです。

1月31日、東京地方は珍しい大雪になりました。

1992年2月 事務局

icbl

33rd International Conference on the Biochemistry of Lipids



Photographie: Gilles DEFAIX



First Announcement

SEPTEMBER 7-10, 1992

LYON-VILLEURBANNE, FRANCE

SCIENTIFIC COMMITTEE

G. Ailhaud
B. Béréziat
A. Crastes de Paulet
M. Croset (Secretary)
M. Lagarde (Chairman)
P. Mazliak
M. Rigaud

CORRESPONDENCE

33rd ICBL
INSATECH
INSA Bât. 705
20, Avenue A. Einstein
69621 Villeurbanne Cedex (France)
Phone: (33) 72 43 82 65
Fax: (33) 78 94 24 55

SCIENTIFIC PROGRAMME

The scientific programme will include invited lectures, selected oral communications and poster sessions.

The topics of the conference will be:

- 1 — Eicosanoids and fatty acid hydroperoxides (one day)
- 2 — Lipid metabolism in plants (half a day)
- 3 — Lipoprotein oxidation and cell activation (one day)

CONFERENCE VENUE

The 33rd ICBL will be held in the south-east of France at Lyon-Villeurbanne, a place close to the french Alps (100 Kms), easy to get by plane (international airport of Lyon-Satolas) or by the high speed train (TGV) from Paris.

Lyon is a gallo-roman city, called Lugdunum when it was a capital of the roman empire. Besides its reputation for french gastronomy, it is a very active cultural and economic centre. The meeting will take place at the university campus, the host institution being the National Institute for Applied Sciences (INSA de Lyon).

OFFICIAL TRAVEL AGENTS

"INSATECH" has been appointed as the official agent to the Conference to make hotel, student residence, tour and travel arrangements.

33rd ICBL
INSATECH
(Michel MAGNIN)
INSA Bât. 705
20, Avenue A. Einstein
69621 Villeurbanne Cedex (France)
Phone: (33) 72 43 82 65
Fax: (33) 78 94 24 55

SOCIAL EVENTS

A social programme is planned for all participants and accompanying persons. It will be detailed in the second announcement.



33rd International Conference
on the Biochemistry of Lipids

SEPTEMBER 7-10 1993
LYON VILLEURBANNE FRANCE

PRELIMINARY APPLICATION FORM

☐ I plan to attend the Conference
☐ I wish to submit a communication

33rd ICBL

INSATECH - INSA Bât. 705
20, AVENUE A. EINSTEIN
69621 VILLEURBANNE CEDEX
(France)

SECOND ANNOUNCEMENT

Full details on the conference will be given in January 1992 and obtained by returning the pre-registration form.



33rd International Conference on the Biochemistry of Lipids

First Announcement

SEPTEMBER 7-10, 1992
LYON-VILLEURBANNE, FRANCE

PRELIMINARY APPLICATION FORM

- ☐ I plan to attend the Conference
☐ I wish to submit a communication

Name:

Affiliation:

Mailing address:

Country:

- ☐ I suggest that you also send this circular to the following persons:

Name:

Address:

Name:

Address:

Please use the attached postcard to ensure that you will receive all further announcements of this meeting.



SOCIETY FOR RESEARCH ON
POLYUNSATURATED FATTY ACIDS

Fifth Scientific Meeting of the Society for Research on Polyunsaturated Fatty Acids (5th SRPUFA)

PUFA 1992

November 11th-14th, 1992
Tokyo, Japan

Mailing address

5th Scientific Meeting of the Society for Research on Polyunsaturated Fatty Acids

Secretary: Masayoshi Soma

The 2nd Department of
Internal Medicine
Nihon University
School of Medicine
30-1 Ooyaguchi Kamimachi,
Itabashi-ku, Tokyo, Japan 173

Phone: 03-3972-8111 ext. 2413

Fax: 03-3972-1098

BIOLOGY OF AGING '92

FOURTH INTERNATIONAL SYMPOSIUM
ON LIPOFUSCIN AND CERIOD PIGMENTS

June 13-16, 1992, Tampere, Finland

CONTACT ADDRESSES

Scientific Program:

Hannu Alho (vice-chairman)
LIPO-92 Congress Organizers
Department of Biomedical Science
University of Tampere
PO Box 607
SF-33101 Tampere, Finland
Telephone: + 358-31-15 72 38
Telefax + 358-31-15 61 70

General Information:

Piia Jastinen (secretary)
LIPO-92 Congress Organizers
Department of Public Health
University of Tampere
PO Box 607
SF-33101 Tampere, Finland
Telephone: + 358-31-15 68 13
Telefax: + 358-31-15 60 57

Registration, Accommodation, Abstract Submission and Travel Information:

TAVI Congress Bureau
Hallituskatu 5 B 9
SF-33200 Tampere, Finland
Telephone: + 358-31-13 35 55
Telefax + 358-31-13 28 40
Email: x.400: O=TAVI, ADMD=ELISA, C=FI

第12回千里セミナー
The 12th Senri Seminar

Oct. 16-19, 1992
Shizuoka, Japan

International Conference on
Lipoproteins, Thrombosis and Atherosclerosis

医学生物学環境化学質量分析国際会議
International Conference on Biological Mass Spectrometry

時：平成4年9月20日（日）～ 9月24日（木）
所：国立京都国際会館

会長 山川民夫（東京薬科大学学長）
組織委員会委員長：松尾武清（大阪大学教授）
開催母体機関：日本質量分析学会日本医用マススペクトル学会

〒565 大阪府吹田市藤白台5丁目7-1
国立循環器病センター研究所
千里セミナー事務局
代表 山本 章

★Symposiums

次の14のシンポジウムが企画されます。ポスター発表に応募されたアブストラクトの中からshort talksが選ばれます。

- S1 The Role of MS in Protein Sequence and Post-translational Modification Analysis
- S2 Topics in Neuroscience
- S3 Microbial Components and Products: Structure-Bioresponse Regulating Activity Relationship
- S4 New Ionization Methods and LC/MS
- S5 Recent Advances in the Studies of Metabolic Disease
- S6 Insights into Dynamic Aspects of Lipids
- S7 Secondary Metabolites and Related Bioactive Substances
- S8 Advances Mass Spectrometric Techniques in Pharmacology and Medicinal Chemistry
- S9 New Aspects of Glycobiology and Glycotechnology
- S10 Application of Sector Type Tandem Mass Spectrometry to Biomolecules
- S11 Applications of Ion Chemistry to Structure Determination of Biomolecules
- S12 The New Technologies in Q-Mass Filter, Ion Trap, TOF, FT-ICR for Biological Applications
- S13 Environmental Toxicology
- S14 Frontier MS

アブストラクト締切 平成4年3月31日
事前登録締切 平成4年6月30日 ¥45,000 締切以後¥55,000

第34回日本脂質生化学研究会 宿泊のご案内

株式会社阪急交通社
外国人旅行部国際・国内会議係
日本脂質生化学研究会担当
〒530 大阪市北区角田町8-47
電話：(06) 373 - 5471
ファクシミリ：(06) 311 - 2767

この度、(株)阪急交通社では、上記研究会ご参加の皆様方のご便宜を計る為、大阪市内の幾つかのホテルのお部屋を確保いたしております。
ご希望の方は至急申込書に必要事項をご記入の上、直接阪急交通社宛お申し込み下さいます様、お願い申し上げます。

1) ホテル名と料金

No	ホテル名	シングルルーム	ツインルーム(2名分)
	電話番号	大阪駅からの所要時間	会場からの所要時間
1	新阪急ホテル 06-372-5101	11,845円 徒歩1分	20,600円 地下鉄と徒歩で12分
2	ホテル京阪大阪 06-353-0321	10,000円 JRで6分	18,400円 徒歩で12分
3	ライオンズホテル大阪 06-201-1511	9,836円 地下鉄で8分	16,840円 徒歩で10分
4	東興ホテル 06-363-1201	8,230円 地下鉄で3分	14,460円 地下鉄と徒歩で10分

*上記料金は、朝食付・税金・サービス料を含む金額となっております。
*先着順に受付致しますので、満室になりましたら他のホテルに振替させていただきます。 予めご了承下さい。

2) 宿泊可能日

平成4年6月16日(火)、17日(水)、18日(木)、3泊分

3) お支払方法

申込金 5,000円/1部屋に付 を現金書留にて阪急交通社宛ご送金下さい。
残金につきましては、宿泊後直接ホテルにてご精算下さい。

4) 取消料

取消の連絡(書面にて)が...
宿泊日の8日前及びそれ以前 1,000円
" 7日前から前日まで 5,000円
" 当日及び連絡なしで不泊の場合 1泊分の料金

5) 申込書及び申込金送付先

〒530
大阪市北区角田町8-47
阪急グランドビル23階

株式会社 阪急交通社
外国人旅行部大阪営業所
国際・国内会議係
日本脂質生化学研究会担当
電話: (06) 373-5471
ファクシミリ: (06) 311-2767
担当者: 下長・福島

第34回日本脂質生化学研究会

宿泊申込書

(フリガナ) 代表者氏名						電話: () - ファクシミリ: () -		
ご所属								
ご住所	〒							
(フリガナ) ご宿泊者氏名	希望ホテル 第1	第2	第3	宿 泊 日 6/16	6/17	6/18	部屋 タイプ シングル ツイン	同室者名
(例)ハンケウ クロウ 阪急 太郎	1	2	3	○	○		1	
合計部屋数 _____ x ¥5,000 = 申込金 ¥								

事務局使用

登録No.	
入金日	